

議会だより

9月定例会 No.33
平成25年11月28日

発行 石川県志賀町議会



	ページ
議長に富澤議員を選出	2
平成24年度各会計 決算を審査	5
緊急時対策棟を視察 原子力発電所対策特別委員会	8
五輪決定で誘客の取り組みは (一般質問)	9
グループ紹介 富来領家町曳き山木遣い保存会	16



永年お疲れさまでした (文化の日功労者表彰)

新 富澤軒康 議員を出 議長に 選



固い握手で議長を交代（左：富澤新議長 右：櫻井前議長）

10月18日、平成25年
第3回定例会（9月定
例会）最終日において、
櫻井俊一議長が一身上
の都合により議長の辞
職願いを提出し、これ
を許可して選挙を行っ
た結果、指名推選によ
り富澤軒康議員が当選
し、第7代志賀町議会
議長に就任しました。

◎ 富澤軒康
とみざわけんこう

平成14年12月、旧富
来町議会議員に当選
後、通算4期在職。こ
れまで副議長、産業建
設常任委員会委員長、
総務常任委員会委員長
などを歴任。富来地頭
町。57歳

平成25年度一般会計補正予算

全員賛成

9億3295万円増額

豪雨災害復旧事業費などを計上



一日も早い災害復旧を（荒屋地内：ふるさと農道）

町長選挙の関係で、4年に一度10月開催となる9月定例会は、10月1日から18日までの18日間の会期で開かれました。町長から提出された平成25年度各会計の補正予算、条例関係、工事請負契約、24年度各会計の決算認定、人事案件など35件、議会からは意見書提出議案1件の合わせて36件を審議し、それぞれ可決、同意、認定されました。

平成25年度一般会計補正予算は、歳入で前年度決算繰越金7211万円、普通交付税1億6383万円、国の経済対策による地域の元氣臨時交付金2億1894万円、水産業強化対策整備交付金1億5900万円の増額を主とし、歳出で県漁協西海支所に自動製氷施設整備費1億9108万円、学校の非構造部材の耐震化対策事業4483万円、豪雨等による災害復旧事業7662万円のほか、国県補助事業の追加に伴う増額などにより、歳入歳出ともに9億3295万円を増額し、予算総額は137億6158万円となりました。

一般会計の予算総額は

137億6158万円

町立富来病院に泌尿器科を設置

地域住民の健康保持に必要な医療を提供するため、町立富来病院で、本年10月から毎月第1・3・5週の土曜日の午前、泌尿器科外来を設置します。



富来病院に設置された泌尿器科

旧校舎を解体撤去

富来中学校の移転に伴い、旧中学校施設の解体・撤去工事の請負契約議案を可決しました。

工事は、寺井建設(株)と1億3104万円で契約を締結するものです。

議会議案

「道州制導入に断固反対
する意見書について」
を賛成多数で可決

提出者 下池外巳造

【趣旨】現在、政府与党内では、道州制導入を目指す法案提出の動きがみられ、また、野党では、「道州制への移行のための改革基本法案」をすでに国会に提出し、衆議院内閣委員会で閉会中審査となっております。

しかし、これらの法案は、道州制導入後の国の具体的な形を示さないまま、期限を区切った導入ありきの内容となっており、事務権限の受け皿という名目のもと、ほとんどの町村においては、事実上の合併を余儀なくされるおそれが高いうえ、道州はもとより、再編された「基礎自治体」は、現在の市町村や都道府県に比べ、住民と行政との距離が格段に遠くなり、住民自治が衰退してしまうことは明らかであります。

単に効率性や経済性を優先し、地域の伝統や文化、郷土意識を無視してつくり上げる大規模な自治体は、住民を置き去りにするものであり、到底容認できるものではありません。

よって、我々地方議会は、このような国の進め方には反意を示さなければなりません。

原子力災害対策
施設を整備

原子力災害時における緊急事態において、即時避難が困難なお年寄りや障がい者などの要援護者などが、避難や受入体制が整うまでの間、一時的に屋内退避を行うための施設として、旧福浦小学校と志賀町総合武道館内に放射線防護対策を行うための工事請負契約議案を可決しました。

新たに町道を
認定

高浜町松ヶ丘地内において、延長31・1メートルの道路を現地確認し、町道として認定しました。



認定道路を視察



旧福浦小学校

旧福浦小学校は石田工業(株)と5502万円で、志賀町総合武道館は、建築工事が南建設(株)と1億1784万円で、機械工事が北菱電興(株)と5575万円で、それぞれ請負契約を締結するものです。



教育委員に
中島 進氏を
任命同意

任期満了に伴い、教育委員会の委員に、志賀町酒見の中島 進氏が任命(再任)され、同意されました。

選挙管理委員に4氏

選挙の結果、各氏が当選しました。

【委員】

寺井 功(富来領家町)

山本政直(給分)

細川幸男(高浜町)

堤谷一博(大笹)

【補充員】

第一順位 岡部 亮

第二順位 今村浩一

第三順位 荒川 仁

第四順位 上滝達哉

平成25年度各会計補正後の総額

会計名	予算額
一般会計	137億6158万円
国民健康保険	28億7232万円
公共下水道事業	9億5372万円
地域し尿処理整備事業	2億2776万円
介護保険	28億 144万円
診療所事業	1億6093万円
ケーブルテレビ事業	4億9039万円

※1万円未満四捨五入

平成24年度 決算を審査

平成24年度各会計の決算を認定するための決算特別委員会
が、10月15日と16日の両日にわたり開催されました。全12会計
の審査で、活発な質疑応答が行われましたので、その主な内容を
を報告します。

一般会計

フローリー運営 基金の見直しは

質疑 花のミュージアム「フローリー」を管理運営するための基金（預金）が、近く底をつくようだが、見直しはどうか。

答弁 基金は当初2億円あり、毎年ここから支出してきたため、枯渇する恐れがある。このため、本年度末で指定管理者の指定期間が満了することから、(有)フローリーの投資者である町と北陸電力(株)、J A志賀とで協議しており、本年度中に方向付けを出す。

陸上競技備品は 使っているか

質疑 陸上競技場の倉庫には、全く使われていない備品があるが。

答弁 日本陸連の公認を取るために備え付けなければならぬ備品があるためである。

千浦二子塚古墳 群の整備を

質疑 西海の千浦二子塚古墳群の整備を町として行わないのか。

答弁 文化財は、整備より維持していくことが目的であり、予算的に余裕があれば何らかの手当てをしたいと思っている。

町祭の費用対効果は

質疑 西能登やつちや祭り
が事業費900万円で観客が8千人、大漁起舟祭が事業費503万円で観客が1万5千人となっているが、費用対効果が逆転しているのではないか。

西能登やつちや祭りの観客は減っているのか。

答弁 大漁起舟祭の方に経費がかかっているのは、最初に県の基金事業で必要な備品を買い揃えたためである。今後は同等になるようにしていきたい。また、隔年で交互に開催すればどうかの提案もいただいている。なお、やつちや祭りの観客数はマスコミの見立て、横ばいとみている。

外灯のLED化 はしないのか

質疑 外灯にLEDを使用する予定はないのか。

答弁 LEDは、規格が統一されていないので採用していない。また、電気料は安いですが、器具が高価なので、もう少し時期をみて検討していく。

高齢者等の除雪 対策は

質疑 高齢者等、自力で除雪することが困難な方への除雪事業は、24年度は3世帯だけだったが、利用可能な方の範囲をもっと広げる考えはないか。

答弁 昨年は申し込みが61件あったが、除雪する基準が町道の除雪基準と同じであり、降雪があまりなかったため利用件数が少なかった。また、申請者の中には

町道の除雪を要望したり、隣に家族が住んでいるのに申請されることがあった。あまり範囲を広げると対応できなくなる。なお、実態は民生委員等の意見書によって把握し、実施している。

自主財源が減っ ていくが

質疑 自主財源が年々減ってきているが、5、6年の間に自主財源と依存財源は半々ぐらいになってくると思う。そうなったときに地方交付税はどうなっていくのか。

答弁 自主財源とは税や手数料などの町の収入で、依存財源とは地方交付税等である。自主財源が減れば地方交付税が入ってくることになるので、自主財源と依存財源の比率は財政運営上は重要なものではないと思っ

委員長	南 正紀	委員	越後 敏明
副委員長	稲岡健太郎	委員	富澤 軒康
委員	福田 晃悦	委員	久木 拓栄
〃	寺井 強	〃	
〃	堂下 健一	〃	
〃	南 政夫		

平成24年度各会計の決算状況

会計名		歳入	歳出	差引残額
一般会計		134億3312万円	133億 807万円	1億2505万円
特別会計	国民健康保険	28億 672万円	27億9873万円	799万円
	後期高齢者医療	3億1883万円	3億1815万円	68万円
	農業集落排水事業	4億8580万円	4億8580万円	0万円
	公共下水道事業	11億7222万円	11億7222万円	0万円
	地域し尿処理整備事業	4606万円	4606万円	0万円
	簡易水道事業	1663万円	1663万円	0万円
	介護保険	24億5932万円	24億5209万円	723万円
	診療所事業	1億7572万円	1億7457万円	115万円
	ケーブルテレビ事業	4億5495万円	4億5495万円	0万円
水道	収益的収支（税抜）	6億1374万円	5億5792万円	5582万円
	資本的収支（税込）	1億1692万円	4億3546万円	△3億1854万円
病院	収益的収支（税抜）	11億 905万円	11億7660万円	△6755万円
	資本的収支（税込）	3億4652万円	4億5817万円	△1億1165万円

※1万円未満四捨五入

特別・企業会計

ケーブルテレビの解約状況は

質疑 ケーブルテレビの解約状況はどうか。

答弁 昨年の加入は94件あったが、解約は70件程度あった。解約理由は、仕事の引っ越しや転出などである。

病院診療費の未収金は

質疑 富来病院の診療費の未収金はどれくらいで、推移はどうか。

答弁 約1千万円あり、推移は近年ほとんど変わっていない。未払い者には所在不明者がいるため、いずれかの時点で特別損失によって処理すべきと考えている。

病院経営の努力を示せ

質疑 富来病院の経営努力の一端を説明されたい。

答弁 待ち時間の短縮に向けて改善策を検討している。また、10月に整形外科に新しい先生を迎え、手術によって収益の増を図っていきたいと考えている。

下水道加入分担金は統一するか

質疑 下水道管路工事の最終年度見込みと普及率は。富来・志賀地域の加入分担金の統一はどうか。

答弁 普及率は、平成23年度末で81%。完成年度は当初27年度を予定していたが、1〜2年伸びると思っている。分担金は志賀20万円、富来30万円だが、これは合併協定で工事完了後に統一することになっている。

ふるさと納税どのようにPRしているか

委員長 久木 拓栄
副委員長 寺井 強
委員 須磨 隆正
// 越後 敏明
// 櫻井 俊一
// 戸坂 忠計



全国のふるさと納税ホームページ（志賀町は未登録）
 〓(株)トラストバンク転載許諾

質疑 ふるさと納税は、去年はもつとあったかと思つたが、どのようにPRしているのか。地元から出た人に直接案内等しているのか。全然増えていないということは広報の仕方が悪いということではないのか。

答弁 PRは当初から「広報しか」に掲載している。この広報は、希望した都市部の志賀町出身者の方へも送付している。また、町長と議長が出席する関東志賀町会にも「ぜひお願いします」といったチラシを作り、広報している。

質疑 富来支所の空調設備を改修することだが、機械の一部取り換えで、本来どおり機能するのか。

答弁 改修は本体部分の冷温水を作る機械で、これを入替えすれば今までどおり動くが、その地の附属品は27年度以降に順次、修繕していきたいと考えている。

教育民生常任委員会

委員長 田中 正文
副委員長 南 正紀
委員 稲岡健太郎
// 堂下 健一
// 下池外巳造

保育士の確保と処遇はどうか



子供たちのために一生懸命頑張る保育士

質疑 保育士の確保は難しいのか。
 土・日に子供を預ける家庭が増えている中で、保育士は休みたいたいと思つても休めないと聞いているが、それに対する手当てや処遇等はどのようになっているのか。

答弁 保育士は全国的に不足し、結婚等により離職率が高い。本町でも臨時嘱託職員を募集しているが、なかなかいない。

質疑 非構造部材耐震化対策事業について、以前構造物に対する耐震化はすべて行ったが、その時に非構造物の調査を一括でできなかったのか。

答弁 過去の耐震化は躯体（柱等）の強化であり、落下物に対する補助制度がなかった。しかし、東北の震災等があり、国の政策として予算措置されたものである。

豪雨の災害復旧事業 早急に実施を

委員 長	南 政夫
副委員 長	福田 晃悦
委 員	富澤 軒康
〃	林 一夫
〃	山本 辰榮

質疑 豪雨による災害復旧工事を早急に実施されたい。

地元から広域農道復旧の用途について聞かれるが、状況を聞きたい。

答弁 広域農道は、大変迷惑を掛けているが、11月18日の週に国の災害査定が予定されている。この査定後に国の補助金で工事に入る予定である。

広域農道には、仮設道路の設計委託を行っており、仮設道路が設営可能であれば11月末までに取り付ける予定である。なお、本復旧はできる限り早急に対応する。

その他の災害復旧箇所については数が多く予定どおり進んでいないのが現状だが、住民に迷惑をかけないよう順次進めていく。

質疑 新たに進出する企業が求める魅力とは何かを町としていかに考えて企業誘致を行うのか。

答弁 企業誘致のPRには企業立地の補助金や奨励金、電気料金の軽減を売りにしている。パンフレットには、いろんなことを記載しているが、今後は、シンプルで分かりやすいものにして、あらゆる時、あらゆる場所で神出鬼没的に行いたいと考えている。

また、町長もトップセールスとして企業を訪問し、町として誠意をもって企業誘致を行っていく。



緊急時対策棟を視察

原子力発電所対策特別委員会



緊急時対策室

11月1日、志賀原子力発電所内において、原子力発電所対策特別委員会を開催しました。

会議では、原子力規制庁志賀事務所長から国が新しく定めた原子力発電所の規制基準について、北陸電力(株)から志賀原子力発電所の状況について、それぞれ説明を受け、敷地内にこのほど完成した緊急時対策棟を合わせて視察しました。

この施設は、免震構造で大地震にもすぐれた機能を発揮し、緊急時対策の司令塔となる施設です。内部の中枢となる緊急時対策室のほか、地下の建物基礎部の免震装置も見学しました。

後半の質疑応答では、敷地内破砕帯の調査報告が伸びた原因に関する質問や住民感情への配慮を求める意見などが出され、北陸電力を質しました。

五輪決定で誘客の取り組みは

情報発信していききたい

町長

福田 2020年の開催が決定した東京五輪に向け、しっかりとした対策を打ち出し、北陸新幹線と小松・能登両空港を生かし、今年4月の能登有料道路無料化、2015年の北陸新幹線開業を追い風に、逸早く国内外から多くの人を呼ぶ施策に積極的に取り組むべき。

町長 今ある観光資源に一層磨きをかけるとともに、新たな魅力づくりや今まで気づかなかった資源の発掘に努め、誘客促進を図っていききたい。

また、観光協会や商工会、個々の観光施設等と連携するとともに、県や能登半島広域観光協会などとも協力しながら、観光PRを進めていく。さらには、放送メディアやインターネットを活用



町職員による出向宣伝

用して、首都圏等で能登や志賀町の魅力を積極的に情報発信していききたい。こうした取り組みを継続することにより、東京五輪開催に際しても、国内外からの観光客を迎え入れることができる。なお、東京五輪の開催に伴う合宿誘致等については、石川県をはじめとして、いくつかの自治体において計画が進められているが、その効果については限定的であり、情報収集に努めながら、対応を検討していききたい。

特別警報の効果検証は

体制の整備を図る

町長



防災行政無線、IP告知端末及びケーブルテレビなどを活用し、速やかに住民への広報を実施する。いずれにしても、防災・減災には、「空振り」は許されるが、見逃しは許されない」という鉄則があるように、被害が生じない事態を恐れて、避難指示等の意思決定が遅れることがないように、適切かつ迅速な対応に努める。

本町においても、今後、異常気象などで「特別警報」が発令された場合の課題を検証し、防災情報の信頼性や地域防災力の向上について考えるべきだ。

町長 特別警報の発表に関わらず、災害発生の恐れがあるときは、地域防災計画に基づき、災害対策本部を設置するとともに、避難勧告・指示などの措置や避難体制の整備を図る。

また、特別警報が発表された場合には、直ちに警戒配備体制を執り、防

その他の質問

福田 名称だけでなく、斬新なキャラ設定を含めた総合的な「ゆるキャラ戦略」を立てるべきだ。

町長 現在実施中の人気投票の中で、実施してほしいイベントや作ってほしいグッズなどの調査も行っており、その結果をもとに、いろいろな面で売り出すとともに、町民に積極的に活用していただけるよう検討をしていきたい。



堂下 健一 議員

イノシシに総合的対策を

連携を図り取り組む 町長

町長 当面は国の補助事業で電気柵や檻ワナを設置していくが、町職員の檻ワナの資格取得は、今後の状況を見ながら検討する。

堂下 イノシシの生態と繁殖力からすると、現状のままでは被害の拡大は避けられないと思う。現在の電気柵等の対策に加えて、さらに総合的な対策が求められているが、町としての取り組みはどう考えているか。

今後は地域の皆さん、石川県、近隣市町、J A や猟友会など関係機関と連携を図りながら対策に取り組んでいく。

猟銃の資格取得は、銃の購入や保管などの事情があるので、慎重に対処したい。また、地域の皆さんにも猟友会の補助制度などを利用しながら積極的に資格を取得していただきたいと考えている。資格試験の事前講習会・試験は、能登地区での開催を県に要望する。



電気柵の設置作業

学校民営化に対する考えは

検討すべき段階ではない 町長

堂下 安倍首相は、国家战略特区のなかで公立学校の運営について民営化の方針を出しているが、このことに対する考えを聞きたい。

争が生まれ、公立学校教育全体の質の向上が図れること」などと言われている。しかし、教育現場に競争原理と効率を導入することは「特定の学校に生徒が集中するなど学校間格差をうむこと」や「経営的観点からの経費節減による教育の質の低下」などの弊害が考えられる。よって、検討すべき段階ではないと考えている。

校に刺激が与えられ、競



公立学校の民営化は検討すべき段階にない

その他の質問

堂下 国は、高校授業料無償化に年収制限を設けるようだが、どう思うか。

教育長 個人的見解だが、高校の進学がほぼ全入に近い状況からみて、全ての高校生に対して無償化するのがベターではないかと考えている。

堂下 原発の新規制基準についての認識は。

町長 新規制基準では、「重大事故の進展を防止する対策」や「既存施設の安全対策の強化」、「地震・津波対策の強化」などを規定しており、原子力発電所で福島のような事故を起こさないための対策を定めたものであると認識している。

医療費は現物給付しないのか

混乱するため実施しない 町長

稲岡 子育て環境の充実

及び乳幼児・児童生徒の健康を確保する目的で、子供の医療費を助成する制度が全国の各自治体で実施されている。

熊本市では、「ひまわりカード」と呼ばれる子供の医療費助成の受給者資格者証があり、市内で診療を受けた際に、このカードと健康保険証を提示すれば、その場で精算されるといふものである。



稲岡健太郎 議員

子育て家庭としては経済的に大変助かるものとなっている。

また、そのようなカードの発行なしに、対象年齢の子供が受診した場合には、その場で精算されるという制度も他の自治体ではあると聞いているので、こういったシステムを本町でも導入できないか。

本町では、今年度から新たに乳幼児・児童医療費助成の対象年齢が18歳まで拡大され、全国でもトップクラスで、大変喜ばしい。しかし、助成金の支給は、領収書を月ごとにとまとめて提出する必要がある、また1年間という申請期限もある。子育て家庭は、夫婦共働きが多く、窓口に出すのになかなか行けないという声もある。

制度をより利便性の高いものとするためにも、また、町内の医療機関の利用促進を図る上でも、ぜひ導入を検討してほしい。

町長

乳幼児・児童生徒が医療機関に入院、通院した際の医療費の支払い方法については、病院窓口で精算される「現物給付」と、患者が一旦病院で支払いを行い、後日に役場窓口で返還を受ける「償還払い」があるが、本町を含め県内自治体すべてが「償還払い」を実施している。

熊本市のように、支払い方法を「現物給付」に改めることにした場合、受益者に支払いの自覚がなくなり、医療費の増大に繋がるなどの結果も出ている。

これは、国の施策の「医療費の抑制」に逆行し、国民健康保険の国庫負担金の減額措置が講じられることになる。

国保会計が厳しい折に、

国の助成が減額されれば、国民健康保険税の増額にも繋がる問題となる。加えて、乳幼児・児童医療費助成事業費が増加することにもなる。

また、本町の受診傾向を見た時に、約7割の対象児童が町外の医療機関で受診しており、町内外すべての医療機関で現物給付を適用することは、事務手続き上や経費面を考えると現実的ではなく、仮に運用しようとした場合には、町内指定医療機関だけになることが想定され、現物給付と償還払いが混在し、受診者の混乱を招くと考えられる。こうしたことから、本町においては、現状のままの「申請による償還払い方式」を継続したいと考えている。

なお、単に利便性だけではなく、0歳から18歳までを対象とした医療助成制度自体を考えれば、本町の制度は、県内一手厚く、熊本市の小学校3年生までを対象としている医療助成とは、その差は歴然である。

<p>※医療機関の方へ 裏面の有効期間を必ず確認してください</p> <p>熊本市子ども医療費支給資格者証</p> <h3>ひまわりカード</h3> <p>★次のときは、ひまわりカードが使用できません。 ※医療機関窓口では個人負担してください。 ①熊本市外へ転出されたとき。 ②生活保護の認定を受けられたとき。 ③学校等の管理下でのケガの場合(第一を除く)</p> <p>記号番号</p> <p>氏名 子 氏名 とも 生年月日 年 月 日 性別</p> <p>受給資格者 氏名 生年月日 年 月 日 性別</p> <p>発行機関名 及び印 熊本市長 </p> <p>交付年月日 年 月 日</p>		<p>※医療機関の方へ 裏面の有効期間を必ず確認してください</p> <h3>有効期間</h3> <p>※1日生まれの場合は、誕生月の歳末日までとなります</p> <table border="1"> <tr> <td>内科(入院-外来)</td> <td>無 料</td> <td>年 月 日から</td> <td>年 月 日まで</td> </tr> <tr> <td>内科(入院-外来)</td> <td>500円負担</td> <td>年 月 日から</td> <td>年 月 日まで</td> </tr> <tr> <td>歯科(入院-外来)</td> <td>無 料</td> <td>年 月 日から</td> <td>年 月 日まで</td> </tr> <tr> <td>歯科(入院-外来)</td> <td>500円負担</td> <td>年 月 日から</td> <td>年 月 日まで</td> </tr> </table> <p>★次のようなときは速やかに手続きを ①加入している健康保険が変わったとき ②市外へ転出するとき ③旧城南町・旧熊本町地域から転居するとき ④生活保護を受けるようになったとき ⑤その他資格に異動が生じたとき</p> <p>【持参品】 お子様名義の健康保険証、ひまわりカード</p>	内科(入院-外来)	無 料	年 月 日から	年 月 日まで	内科(入院-外来)	500円負担	年 月 日から	年 月 日まで	歯科(入院-外来)	無 料	年 月 日から	年 月 日まで	歯科(入院-外来)	500円負担	年 月 日から	年 月 日まで	<p>※医療機関の方へ 裏面の有効期間を必ず確認してください</p> <h3>登録されている保険証内容</h3> <table border="1"> <tr> <td>被保険者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保険者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保険者番号</td> <td></td> </tr> </table> <p>受診の際は、必ず健康保険証と合わせて医療機関の窓口にてご提示ください。加入している健康保険証が上記の内容と異なる場合は、医療機関でひまわりカードがご利用いただけませんので、お子様の氏名が載っている健康保険証とひまわりカードをご持参のうえ、市の窓口で保険変更の手続きを行ってください。 なお、市の窓口については裏面をご覧ください。</p>	被保険者名		保険者名		保険者番号	
内科(入院-外来)	無 料	年 月 日から	年 月 日まで																						
内科(入院-外来)	500円負担	年 月 日から	年 月 日まで																						
歯科(入院-外来)	無 料	年 月 日から	年 月 日まで																						
歯科(入院-外来)	500円負担	年 月 日から	年 月 日まで																						
被保険者名																									
保険者名																									
保険者番号																									

熊本市が発行する「ひまわりカード」

交流人口の取り込みを

新たなサービスを企画 町長



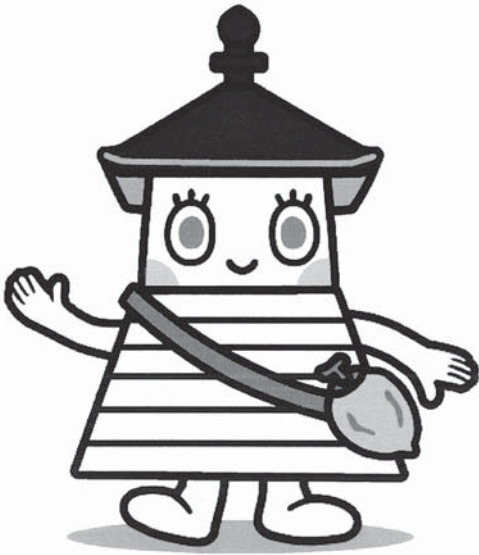
南 正紀 議員

南 交流人口の取り込みには、町民を巻き込んで、「もてなし力」の向上に努め、ゆるキャラ、B級グルメや特産品、志賀町観光大使等あらゆる手段を使い、誘客すべきと考えるが具体策について考えを問う。

町長 これまで交流人口拡大に向けての各種事業は、多くの町民の協力を得て成り立ってきた。今後は「ゆるキャラ」を活用して、美しい自然環境や豊かな食文化など多様な魅力を町内外へ効果的

に発信し、誘客を促進する。

さらには、能登の魅力の一つである、「食」についても、「地域の自慢づくりプロジェクト」において、観光協会が、日本を代表するシェフの指導を受け、「西能登しか丼」の魅力アップを行い、首都圏へのPRを実施する。観光客に対しては、全ての町民が「おもてなしの心」で接し、リピーターとすることが大切。これからも、「ここ志賀ない」という、新たなサービスを企画していく。



このほど選定された志賀町の”ゆるキャラ”

子供のスポーツ環境づくりを

サポート体制を充実させる 教育長

南 子供たちが町内でスポーツの才能を伸ばせる環境を作るべき。

統合により学校数が減る中で、これまで8校の対抗で行われてきた各種スポーツ大会への影響が懸念されるが、今後の取り組みについて問う。また、スポーツ指導員導入の効果を示せ。

教育長 専門的に指導する顧問教員の確保が厳しい状況だが、昨年度からは、一部競技において、生徒たちが外部指導者の指導を受けられるように見直した。今後とも外部指導者の活用を推進するとともに、顧問教員の資質向上に努め、部活動の活性化を図る。
小学校8校の対抗で行われてきた各種スポーツ大会は、子ども会育成委



伝統の子ども会相撲大会

その他の質問

南 既存小学校の施設や備品は、統合まで残りわずかな期間であっても、保守管理の徹底を図りたい。

町長 既存体育館においても、地震等の落下物防止策を講じるなど、より安全性の高い施設整備を進めていく。

員連絡協議会の中で問題提起されているが、具体的な協議は進展していない。具体的な協議をお願いし、円滑な協議がされるようサポート体制を充実させる。
スポーツ指導員は、5年間の勤務を一つの区切りとし、その際に詳細な検証を行う予定であるが、一定の評価はしている。

菱根川氾濫の原因は

断面不足、県に改修を要望 町長

越後 この度の豪雨により、菱根川が氾濫し、水が町道岩田・宿女連絡線に大量に溢れ出て、通行止めとなり、水田へも流れ込んでいます。

時期的に稲刈りの前で、大きな被害はなかったようだが、稲の穂が出る前だったなら、被害が発生していたと思われる。

また、近くの民家は、過去にも床下浸水をしたことがある。今まで何度か町当局に対策を講じてもらったが、未だに不安の解消には至っていない。



越後 敏明 議員

今までの対策会議では、川幅の問題や、用水路の整備、打開橋下流の土砂堆積物の撤去や下流域の河川改修など、これら複合的要素がいろいろ意見として挙がっている。

町として、どこにこの原因があると認識しているのか。また、その対策はどうなのか。

町長 近年の異常気象による局地的大雨により、各地区で河川の氾濫が見られる中、菱根川でも8月に堤防を越流し、一時的に町道が通行止めとなった。

県では、過去にも越流があり河川断面不足が懸念されることから、拡幅を計画しており、そのための用地も確保している。現在、下流部分が改修されており、未改修部分に

ついても、地元の見解を確認しながら、改修するよう県に要望をしていく。



氾濫寸前だった前川

前川の決壊対策は

道路改修も検討 町長

越後 先の豪雨は、前川が氾濫したと見間違っうほど、ギリギリの所まで川の水位が上昇し、前川沿いの町道2箇所が通行止め、通行不能となった。

この町道は、防災上、水田の土手の方が町道より高く盛られている。これは、ある意味で町道の方へ氾濫した水が逃げて流れれば、水田への被害が免れるとも言える訳で、もし、土手が決壊した場合には、この地域一帯の大きな被害は免れない。

また、通行止め・通行不能となった道路の1箇所は、今年度に定住促進住宅地として取得した土地の真ん前の道路でもあり、津波浸水想定区域内に含まれていると思う。

地域の発展や活性化には、何よりも安全で安心な日常生活があつてのとこだと思う。

この道路の安全確保は、町道の方を改修するのか、或いは、河川整備をするのか、また、その時期はいつ頃となるか。

町長 先般のゲリラ豪雨により、前川沿いの町道高浜羽咋線は、宿女交差点付近の1箇所だけを通行止めにした。

これは、前川が満水のため、道路及び農業排水路からの雨水が河川へ流出できなかったことと、河川からの逆流により町道が冠水したため、通行に支障があるとの判断のもと通行止めを行った。

前川は、県による河川改修計画がないことから、今回のような一時的な豪雨で冠水した場合に、通行止め等の措置をとり、迂回路を利用してもらうこともあると思う。しかし、今回のような豪雨が度重なるようであれば、道路改修も検討しなければならない。

なお、定住促進住宅予定地の前面の道路は、浸水想定区域には含まれていないし、先般の豪雨の際にも、通行止めにはなっていない。

これからの政局・政治はどう動く

石川県町村議会議長会 議員・監査委員合同研修会

石川県町村議会議長会の議員・監査委員合同研修会が8月9日、津幡町生涯学習センターシグナスで開催され、講師にテレビのコメンテーターとして知られる時事通信社解説委員の田崎史郎氏を迎え、「これからの政局・政治はどう動く」と題し、ねじれ解消後の政権運営と中央政界のこれからの動きについて講演を聞きました。



講演は、安倍政権が掲げるアベノミクスや外交問題などについて詳しく解説され、参加した議員は興味深く話に聞き入りました。



わが国における政治課題は、地方においても山積しており、とりわけ本町には原発問題が大きな問題として挙げられ、現在停止中であっても今後は国の動向によって、エネルギー政策が翻弄されることから、このような機会をとらえて、中央政界や経済情報を収集し、政治判断の知識を養ってまいりたいと考えます。

議会改革に触れる

能登地区町議会研修会

8月21日、能登の5町の議会で組織する、能登地区町議会連絡会の議員研修会が会長選出町である中能登町ラピア鹿島を会場に行われました。

この研修会は、議員の知識向上のため、今年初めて開催されました。

講師には宮城県蔵王町議会の議会運営委員長馬場勝彦氏と議会事務局長の斎藤英之氏を招き、「分権時代に対応した議会活性化方策について」と題し、議会改革実例について学びました。

蔵王町議会では、早期から議会改革の機運があり、平成20年から本格的に活性化検討委員会を立ち上げ、17項目の改革に着手しました。

その主な内容は、委員会等の公開、公聴会の活用、議会報告会の制度化、議会への住民参加、通年議会の制度化、議会基本条例の制定、反問権の制度化、議員学習会の定期的実施、実効性のある先進地視察研修の実施、町



の付属機関等への兼業の禁止、意見書の委員会付託、議員相互間の自由討議等となっており、正に地方分権時代に沿った議会改革が成し遂げられた感があります。

演壇に立つ両氏からは、議会内での様々なご苦労が伺われ、産みの苦しみともいえるべき苦難を乗り越えて議会改革が達成されたという自信と満足感が、力強く言葉として我々の胸に響きました。

議会広報の

先進事例調査を実施

議会広報特別委員会では、10月24日に沖縄県北中城村（きたなかぐすくそん）と北谷町（ちやたんちよう）の議会広報調査特別委員会を訪問し、議会広報にかかる先進事例調査を行いました。

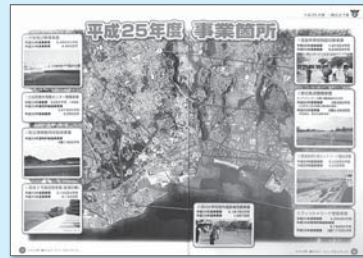


花崎北中城村議会議長から歓迎を受ける

北中城村議会だよりは、全国町村議会議長会議会広報コンクールで、平成17年度に「奨励賞」に輝き、近年、受賞はないものの、活発に広報活動を行っている委員会です。

誌面は、見出しや論調に迫力を感じるものとなっており、また、一般質問に力点を置いているようで、ここに住民の関心を引き付けると同時に議員の活動をアピールしている意図が感じられました。

続く、北谷町議会だよりは、沖縄県内の議会広報コンクールでは受賞の常連で、全国でも平成23・24年度の2カ年「奨励賞」の連続受賞に輝いた沖縄県一の議会広報を作成している委員会です。記事内には見開き記事や写真を背景にするなど、読者を引き付ける工夫が施され、インパクトがあります。特に、新年度予算では、町内の航空写真を背景に事業箇所を明示した記事が住民目線で作成されており、大変参考になりました。



目を引く北谷町の議会だより

いずれの議会だよりの巻頭を飾る記事には米軍関係への抗議の決議が多く散見され、他都道府県の町村にはない地域の懸案が議会だよりを通して如実に伝わり、この議会広報の役割の重さがあると感じました。地域でそれぞれに特色のある議会広報ですが、議会広報のあり方や原点について考えさせられました。今後、この調査で得た知識や感想を整理しながら、志賀町の議会広報について考えていきたいと思います。

統合小学校

先進2校を調査

教育民生常任委員会では、10月28日と29日に、本町で建設が計画されている統合小学校の先進事例調査として、志賀地域の統合小学校と同じ設計事務所が設計した香川県高松市と兵庫県尼崎市の小学校を訪問してまいりました。



新番丁小学校で説明を受ける

最初に訪問した高松市立新番丁小学校では、児童・生徒数の減少や校舎の老朽化等を背景に、「小中学校適正配置等審議会」が設置され、答申が出されました。この答

申を受け、市では新設統合校の整備に取り組み、保護者、地域、学校、教育委員会が協議会を組織し、協議を重ねながら、22年に3つの小学校を統合した新番丁小学校が開校しました。この小学校は、「地域の中ではなくまれる安全安心な小学校」を柱に掲げ、防犯上から、2階以上に普通教室を設けています。また、ガラス張りの階段室が校舎の四隅に設置され、地域の人に子どもたちの様子が見える形になっています。

それぞれの教室の前には多目的スペースがあり、教室の間仕切りを収納することで授業参観時などは、多くの父兄が参観できるなど、参考になる点が多くありました。続く尼崎市立杭瀬小学校は、「適正規模・適正

配置推進計画」に基づき2校を統合しました。

委員からは、大規模校に対して小規模校の児童はうまく馴染めるかと聞いたところ、子ども同士は案内柔軟性があり、適応するのが早いとのことでした。

見学した両校とも、都市部の学校ということで郡部の施設とは異なった条件が多いものの、統合に関する課題は同じであり、地域全体で学校や子どもたちを見守っていくことが大切だと思いました。今回の視察では、施設の良い点、悪い点などをお聞きし、大変参考になりました。



多目的スペースは創造の場

富来領家町 曳き山木遣い保存会

富来八朔祭りには欠かせない「曳き山木遣り」を、末長く後世に伝えるための活動に励む富来領家町曳き山木遣り保存会を訪ねました。

伝統を後世に伝える



会長 角谷 秀文さん

◆発足の経緯は。
◇古くから領家町に祝い歌として伝わる「曳き山木遣り」は、八朔祭礼の曳山巡行には欠かせません。しかし一時期、青年会員の中で、その音頭取りが極端に減り、伝承が危ぶまれました。そこで、歌の名人が達人なうちに伝統的歌い方を教えてもらいながら、領家町の伝承として保存し、発展させる目的で40年ほど前に、この木遣り保存会を結成しました。

◆メンバー構成は。
◇富来領家町在住の者で、青年会員とそのOB達です。人数で一番多いのは青年会員です。法友会、領和会の三役は役員として参加しますが、特に青年会長はこの会の副会長を務めます。

◆普段はどのような活動をしていますか。
◇毎月18日に領家町会館で歌の練習会をしています。また、区の行事などで区民が領家町コミュニティセンターに大勢集まった時などには、必ずこの木遣りを皆で歌うので、その場でも木遣り保存会は大活躍します。なお、木遣りを習いたい人は、誰でもいつでも練習会に参加できます。今年のは、婦人団体のむつみ会の皆さん十数人が来ています。

◆これまでの活動など。
◇合併後は毎年、初夏と秋の文化祭に出演してきました。中日ドラゴンズの小松投手が活躍していたところ、テレビ局のスタジオまで行き、富来町の紹介番組のひとつに協力出演したこともあります。また地元の商工まつりや敬老会・慰問演奏会などの各種イベントや結婚式や記念式典のアトラクションにも招かれて出演してきました。



◆今後の計画や目標など。
◇私達の「木遣り」の背景にあったものを知り、将来の可能性をめざしたいと考えています。伊勢神宮の御厨（みくりや）食糧調達（所領）が能登には4箇所あり、その中のひとつが富来にあったという古い歴史や北前船によってもたらされた生活の変化や文化に領家町の木遣りがどの様な影響を受けてきたのかを、他の木遣りと交流しながら探ってみたいと思います。

30年程前、この木遣りに勇壮な手踊りが振付けられました。しかし、現在はこれを踊る者がいません。何とか復活したいものです。そしてこの歌を、町民のだけれど、祝儀の席に歌えるように広めたいと思います。

◆最後に一言。
◇木遣りの歌詞は、全国の民謡と同じように、七・七・七・五のわずか26文字で出来ていますので、町民の皆様にご

も新しい歌詞を、どんどん作っていただきたいと思えます。特に、今年は伊勢神宮の式年遷宮が行われた記念すべき年です。応募作品は、今後会員が心を込めて歌い継いでいきます。優秀作品はCD録音してお届けしますので、どうぞご応募をお待ちしております。

☎42-0029 角谷



議会広報特別委員会

発行責任者	富澤 軒康
議長	富澤 軒康
委員長	福田 晃悦
副委員長	南 正紀
委員	稲岡健太郎
	寺井 強
	下池外巳造
	須磨 隆正

議会だより

しか

9月定例会

No.33

平成25年11月28日

発行 / 志賀町議会 編集 / 議会広報特別委員会
〒925-0198 石川県羽咋郡志賀町末古千五1番地1
TEL (0767) 32-1111 FAX (0767) 32-3933